



宇治茶を扱う店で商品の
特徴などを取材する
免道第二小の児童たち
(宇治市宇治)

免道第二小6年生

「商店街を巡り 店員から取材」

宇治の新しい土産を考えよう

宇治ならではの新たな狙い。京都市中京区のな土産を考えようと、NPO法人(特定非営利活動法人)「アント」の利活動法人「アント」の六年児童が六日、同市「レプレナーシップ開発センター」事務局長の宇治橋通商店街などを巡り、店員から商品原田紀久子さん(44)について取材した。七が講師を務めた。

値段や季節感…意見出し合う

日と八日も取り組み、この日は児童八人が条件について意見を子どもが発想を生かし参加した。同商店街の出し合った。梅原凌君た土産を話し合う。一角にある京都文教大(12)は「宇治の良さ」を説明協会(東京都港サテライトキャンパス)が伝わるような商品(区)の子ども向け講座で注意事項を聞いた「考えたい」と話している。アイデアを大切に後、早速、商店街や平等院表参道へ。宇治茶

(大西保彦)

や菓子などを扱う店では「一番売れている商品は」「買う人の年齢層は」「商品の特徴は」と次々に質問し、店員の答えを熱心にメモに収めた。

続いて児童たちは、値段や季節感、安心感など、よく売れる商品